

シアトル小児病院への研修を終えて

小児救急医療センター 看護師 本多綾子

兵庫県立こども病院は昭和 56 年にシアトル小児病院と姉妹病院提携をしておりますが、いままで実際的な交流活動がありませんでした。しかし前中村院長がシアトル小児病院との交流活動実現に向けて熱心に取り組んでくださり、平成 18 年に国際活動委員会（現在の国際活動推進委員会）を発足し、平成 18 年 12 月シアトル小児病院からのスタッフ 6 名を迎えての学術交流会、翌年 1 週間のシアトル小児病院訪問を経て、今回の医師 4 週間、看護師 3 週間という長期の研修が実現しました。

今回のシアトルでの看護師研修プログラムでは事前に私達が提出した研修希望内容はもちろん、それ以上の充実したプログラムを組んでいただき、シアトルの看護スタッフの温かいサポートを受けながら、研修を進めることができました。

シアトル小児病院の概要に始まり、病院の各部門での医療・看護の特徴、また関連施設のフレッドハッチンソン癌研究センターやワシントン大学シミュレーションセン

ターなども訪問させていただき、日々刺激のある有意義な研修を受けることができました。

研修を通して最も印象に残った事が、こどもを中心とした医療の姿勢が徹底されていたことです。病院自体の構造も廊下に遊園地のような飾りがあつたり、外来部門のエリアは構造が海の中にいるようなデザインで海の動物の絵や写真がいたるところにあり病院とは思えないような構造で、病院に受診しないといけないというこどものストレスが少しでも緩和できるのではないかと感じました。また家族へのサポートも充実しており、遠方から入院する家族や長期に入院生活をしなければならない児の家族、また患児の兄弟へのサポートが組織の中で確立されており、これらは日本において今後の課題となるところでないと痛感しました。

シアトル小児病院での医療は医療収入だけではなく独自の資金を得る努力や地域の企業の支援もあって質の高い医療を提供されていました。現在の日本では少子化に伴う小児医療機能の縮小等、小児医療を取り巻く状況は決して恵まれているとは言い難いですが、今回得た知見を今後もこども病院での看護



の質の向上へとつなげていきたいと考えます。

今回の研修はシアトル小児病院のスタッフ、兵庫県ワシントン州事務所のスタッフ、研修に向け準備をしてくだっただも病院のスタッフ、そして非常に忙しい業務の中、3週間もの間、研修に出して下さった救急のスタッフの協力がなければ成立しませんでした。研修に関わり、協力をして下さったすべての方に心から感謝しております。

そしてこれからもこのシアトル小児病院との交流活動がさらに充実し、継続されて、互いの病院の医療の質が向上することを願っています。